絵画の部

		審査員 花 房 完 昇 先生
審查員講評	総評	第49回小野市美術展の審査依頼を受け、ワクワクドキドキしながら審査をいたしました。審査会場で、まず大作が並んでいたことに驚き、様々なジャンルの作品が登場していたことに感激、レベルの高さを感じました。そのような中、「何のために、何を、どのように表現しようとしているのか」に視点を置き観ていきました。1度2度3度流して作品をまじまじと観て一次審査、主な受賞作品候補の18点の選出、更に9点の受賞作品の決定。次に入選作品を選出という手順で審査いたしました。入選作品の選出が最後になりましたのは、それだけ入選作品を選出することが難しかったからです。出来る限り色々なジャンルの作品を多方面から選出したいという思いの中、入選作品、受賞作品を決定いたしました。ご入選、ご入賞されました方々おめでとうございます。
	市長賞	赤秀利成さんの作品「Beyoud The Time」。上半身乱れた若い女性がガスマスクを被り、有刺鉄線の前で首をかしげている写実的表現、背景は不安を感じる赤と黒の配色。危機的な状況や生と死を感じざるを得ない作品です。「何のために、何を、どのように表現しようとしているのか」が明確に理解できる秀作です。
	議長賞	東郷武久さんの「GLOBAL VILLAGE」。様々な国々の様子を切り取り、カラフルにメルヘン的に描いた作品に目が留まりました。明るく表現することは、見る人をも明るい気持ちにさせてくれます。そこにこの作品のよさがあると考えました。
	教育長賞	米田三枝さんの「華」。大きな茶褐色の花瓶に飾られた色とりどりの花々の表現 に、華々しさを十分に感じとることができる作品です。花の鮮やかさを目立たたせ るのは、茶褐色の花瓶と背景の青灰色。その青灰色にも重色の効果が見え、作品に 華やかさと同時に重厚さを添えています。

				是	1 名			氏 名 住 所
審	査	員	過	去。	と の	共	生	花 房 完 昇
市	長	賞	Ве	eyond	The	Time	е	赤 秀 利 成 小 野 市
議	長	賞		GLOBAL	, VI	LLAGE		東郷武久 小野市
教	育 長	賞			華			米 田 三 枝 姫 路 市
文 化	連盟会	長賞	秋	日 君	旬 の	散	歩	藤 城 三 千 子 加 古川市
商工	会議所会	頭賞	鍛	冶	屋	職	人	石田枝里奈 加西市
美術	協会	長 賞	軌	跡	-	想	V	山居茂樹豊岡市
奨	励	賞			港			志 賀 勝 彦 高 砂 市
奨	励	賞	バ		ラ		園	藤井まさみ 加東市
奨	励	賞	汽	車	が	走	る	和田茂樹朝来市
			秋				麗	宮崎辰夫 神戸市
			威	風	}	禀	々	大 西 義 昭 西 脇 市
			ただ	いま	食事中	パー	F 2	瑞 妃 播磨町
			不	動	Ę	明	王	中村 美枝子 小野市
			冬		\mathcal{O}		林	井 戸 久 枝 小 野 市

題

少

桜 心 奥 吉田怜 神河町 陽 瀬 戸 八木田洋子 小野市 \mathcal{O} 夕 井 史 代 加古川市 船 の修 理 笠 屋 さ W 野 浩 明 石 市 古 \mathcal{O} 夕 幕 n 大 都 ベニコン ゴウイン 須 田 静 子 神 戸 市 コ 子 戸 ス 七 ス 清 水 順 神 市 コ 畑 井 縄 滋 規 野 市 文 杉 石 小 末瀬真由美 野 市 毛 繕 11 小 上 昭 子 野 井 小 市 木 漏 れ 日 の中 を 弱さと向き合う私の肖像。 **TSUBASA** 多 可 町 チ ウの参 道 彐 渡 部 達 神 戸 彦 市 (亀岡市出雲大神宮) 冨田美津子 野 咲 11 た 小 市 2024 嶋 平等院(水彩洋画) 大 久 野 市 直 小 大 瀑 福 田 康 人 加古川市 布 林 勝 彦 木 市 悠 小 久 片 出 幸 代 西 脇 市 華 千 丈 寺 湖 夏 景 福 田 秀 行 加 東市 往 時 を 偲 3 増 本 美 子 西脇 市 千 手 中 元 豊 光 加古川市 石井奈津江 こだま 東 樹 霊) 加 市 舞 子 小 村 梁 瑚 高 砂 市 ラピス+ルリコ 野 市 God bless you 小 lovely angels 野 市 cocomoni 小 ~愛しき使者~ 藤 \mathcal{O} 花 大 東 正 徳 神 戸 市 林 春 美 野 市 公 京 小 小 昭 お 留 守 番 米 谷 神 戸 市 管 男 加古川市 無 限 田 西 道 大野美智子 加 東 散 市 歩 間 前 育 子 小 野 市 復 活 \mathcal{O} 瞬 森 ジ 雪 上 梶 原 紀 子 砂 市 \mathcal{O} 高 口 ツ 北 条 仏 鈴 木 博 加 西 市 \mathcal{O} 石 野 市 7 ま ŋ لح 猫 12 号 小 わ

年

五百蔵正也

三

木

市